

## 誓いの言葉

本日、私を含めた新入生の皆様は、それぞれ違った人生を抱えて、ここにおられることと思います。しかしながら、この日に至る経験、経歴、年齢に違いはあっても、期待・希望は等しく同じ大きさだと思います。

新入生を代表いたしまして、僭越ではございますが、「誓いの言葉」を述べさせていただきます。

私は、介護福祉士として、小規模多機能型介護施設と、在宅介護センターの2ヶ所で、日々福祉と向かい合っております。介護の世界の経験も浅く、今は歳を重ねるばかりの毎日ですが、福祉の道に進む前は、子育て・仕事と走り続けておりました。病気など縁がないと、健康を自負しておりましたが、60歳を目前にして、乳癌を発症、右乳房全摘手術ということになりました。術後、麻酔から目が覚め、家族の不安そうな顔を見て、心から「生きていてよかった」と思いました。常に見守り、世話をする立場であったのが、こうして家族から心配され、介護される側の痛みを初めて知りました。この経験により、介護する側も、いつ立場が入れ替わり、介護される側になるかわからないということを実感しました。同時に、誰かの役に立ちたいという希望が芽生え、ヘルパー2級の講座を受講し、取得後、すぐに登録ヘルパーとして、在宅介護の道に進みました。

介護に取り組むうちに、福祉を取り巻く環境への疑問、自らの技量不足、おぼろげな福祉の知識に限界を感じてきました。自らの資質の向上を図るべく、介護福祉士の受験に臨みました。結果的に合格しましたが、それ以上に、学習の中で得られたものが大きかったと思います。まずは、日々の現場での対応の変化です。これまでは、経験から得られた一面的な見方に偏りがちでしたが、多方面からの視点で対応する姿勢が生まれてきました。さらに、他者との交流、講習会への参加と、今までにない世界の広がりも生まれてきました。意欲的に取り組む多くの方々に触発され、総合的・体系的に学んでみたいという気持ちが生じてきました。もうひとつは、目標の大切さです。少し遅いスタートではありますが、再び学ぶという道を選んだ要因の一つに、目標があったということです。介護福祉士の勉強中、ただ知識としての学習であったなら、合格はなかったことでしょう。「国家資格取得」という目標があったからこそ、達成できたと思います。目標あればこそ、継続につながると思ひ、このたびは「社会福祉士」を目指す志であります。

福祉の世界は、多くの問題を抱えて、変化しています。団塊の世代の高齢化、少子化による担い手の減少、老老介護など…、私自身の環境も、これに並行して変化しています。

福祉の現場で直面する問題点を少しでも解決し、介護の社会に還元したいと思っています。仕事に従事しながらも学ぶということは、限られた人に与えられた貴重な機会です。新しい知識・技量を身につけるべく、総合的に学習を展開し、誰もが「生きていてよかった」と思える社会を目指して、学んでいきたいと思っています。

以上を、私の誓いの言葉といたします。

2012年5月19日

日本福祉大学 通信教育部

新入生代表 花井 啓子